

研究タイトル

乳製品を活用した食・栄養面からの災害時対応可能な人材育成プログラムの構築とその教育効果の検証

研究者名（所属先）

- ・ 由田克士（大阪市立大学大学院 生活科学研究科）
- ・ 福村智恵（大阪市立大学大学院 生活科学研究科）
- ・ 早見直美（大阪市立大学大学院 生活科学研究科）

【目的】

大規模な自然災害の発災時は、食糧供給減少による食生活の乱れや長引く避難生活によるストレス等の増加により、慢性疾患の悪化や新たな健康問題発生等の健康リスク増加が危惧される。本研究は保存性の高い乳製品を活用した食・栄養面からの災害時対応可能な人材育成プログラムの構築とその教育効果を検証し、備蓄食糧・災害対策食としての乳製品の新たな可能性を検証することを目的に実施した。

【方法】

管理栄養士養成施設である大阪市立大学生活科学部食品栄養科学科 4 回生 35 名を教育群とし、同規模の別の公立大学 A～D 校の管理栄養士養成施設に通う 4 回生 A 大学 35 名、B 大学 25 名、C 大学 40 名、D 大学、40 名を対照群とした。教育群では、災害時における乳製品の活用策と、各ライフステージへの展開を考慮した炊き出しメニューの考案および屋外演習を実施した。対照群には、事前と事後のアンケート調査の実施協力を依頼し、災害に関する知識・意識・行動状況を教育群と比較した。

【結果】

本演習に多くの学生が積極的に取り組み、災害時の栄養・食支援に対する理解を深めたこと、また、他大学との比較により、各校の災害に関する教育内容の違いや被災経験の有無が知識・意識・行動状況に影響していることが推察された。また、災害時に乳製品を積極的に活用する意義を理解した者、スキルを習得することができたと答えた者が約 8 割であり、各ライフステージにおける活用法も十分に考察させることができたのではないかと考えられた。

【結論】

本演習プログラムは、管理栄養士養成課程の最終学年における通年の演習プログラムとして、臨場感のある演習プログラムが構築でき、また、災害時において乳製品を活用する意義や活用法も十分に考察させることができたのではないかと考えられる。今後も、さらに検証を重ねた上で本演習プログラムを発展させ、災害時の食支援に貢献できる人材輩出を目指したいと考える。